

社員主導の働き方改革委員会が 会社の仕組みを変え 成果を見える化。

島津印刷(株)
代表取締役社長 島津 延明 さん



こんな取組を
推進しています!

- 1 使いやすい
半日有給休暇
子どもが小学校を卒業するまで年に上限
18回使える「半日単位の有給休暇」
- 2 業務の「見える化」で
残業時間大幅軽減
社員のライフワークバランスを
見据えたTBシートを作成
- 3 みんなの働きやすさを
目指し、社員の声を収集
独身社員にも配慮、不公平感の軽減に
努め、社員アンケートも検討

国の働き方改革関連法は、少子高齢化による労働力不足への対応が大きな柱となっています。当社では2017年2月にできた「働き方改革委員会」を中心に、多様な問題解決を進めています。

この委員会は社員主導で始まったもので、育児支援、介護支援、残業の軽減、有給休暇取得率UPなどに取り組んできました。育児支援の主な内容は①休日日数の増加(年間105日から108日に)②育児特別休暇の制定(社員の子の入園、小学校入学時に有給の特別休暇)③半日有給休暇の制定などです。

3番目は社員の声を受けて15、6年前に始めたもので、年次有給休暇のうち6日を限度として半日単位に分割して取得できます(年12回)。小学校卒業までの子を養育する社員には男女とも子1人につき9日が上限。つまり年間18回の半日有給休暇を使うことができます。

介護支援でも半日単位の介護休暇を制度化し、1人につき年5回、半日なら年10回利用することができます。当社社員

の平均年齢は41歳。育児支援も介護支援もより力を入れていきます。またTBシート(業務や課題を分類、細分化し、一目で達成状況が分かる目標達成計画書)による業務の「見える化」を進めた結果、残業時間が大幅に減りました。現在約30%にとどまっている有給休暇の取得率を上げようと、社員への働きかけやポスター掲示なども行なっています。

長く働いていただく以上、育児や介護と仕事の両立は欠かせません。一方で、子育て世代の社員だけを厚遇し独身社員が不利益を感じないよう、委員会では今後、広く意見を集めるため社員アンケートを企画しています。現代社会の現状に合わせて会社の仕組みを変えるのは当たり前のことですから。

10年以上前から折に触れて社員に言う言葉があります。家庭を持ってください、家を持ってください、子どもに恵まれ、その子どもが望めば、最高学府まで学べるようにしてくださいと。私は、この会社をそういう会社になりたいと思っています。そのため、育児支援施設や介護施設を併設した工場の建設も考えているところです。



子どもと24時間向き合った2週間。 育児休業を取ってよかった。

イクメン社員
水戸 健太郎 さん(35歳)

長女が生まれた時は育児休業を取りませんでした。男性が育児休業を取るという発想が自分になく、また会社も今のような「男性社員も育児休業を積極的に取りましょう」という雰囲気ではありませんでした。

2人目を授かった時は上司に相談して育児休業を申請しました。その頃は会社が「イクメン応援宣言企業」に向け取り組んでおり、県の「少子化対策モデル事業5型」で補助金もいただけることに背中を押されました。

妻が里帰りから自宅に戻ったタイミングで育児休業に。もともとやっていた家事全般を引き受け、遊びたい盛りの上の子の相手を全力でしました。朝から晩まで子どもたちと向き合い、成長を自分の目で見られたことが嬉しかったですね。妻からは「精神的にも助かった」と言われました。

今は週末ごとに家族で出かけており、年の近い社員と公園情報などを交換しています。夫婦で子育てをするのが一番ですが、妻が不在でも家事育児を任せられるのがイクメンかもしれませんね。



SHIMAZU HOLDINGS GROUP

島津印刷株式会社

●所在地: 新潟市 ●業種: 総合印刷業 ●従業員: 130人

【業務内容】最先端技術による企画デザイン制作、各種商業印刷、パッケージ印刷、加飾加工をメインに、ホームページ制作、ドローン撮影、動画編集、イベント企画などでお客様のお役に立つ企業を目指す。



私たちはイクメン応援宣言企業です!

新潟県では、男性労働者が育児に参加しやすい職場環境づくりに積極的に取り組む企業を「イクメン応援宣言企業」として登録しています。

もっと詳しく知りたい方は

にいがたイクメン応援宣言

<https://niigata-ikumen.jp>

2019年2月発行